

令和5年11月1日

## 事務局連絡

—— 随筆春秋第61号原稿締め切りの告知ほか ——

私の暮らす川崎市では、10月も半ばに入ってから、やっと金木犀<sup>きんもくせい</sup>が花をつけました。この花が香り出すと、中学生のころを思い出します。学生服の衣替え<sup>しら</sup>を報せる香りです。

そんな感傷に浸っているといつの間にか、随筆春秋第61号の締め切りまで2か月を切っていました。

原稿の締め切りは、例年どおり**12月15日**とさせていただきます。  
原稿の提出方法も例年と同じでございます。

### 【今回の告知事項】

1. メールで送る場合、宛て先のメールアドレスは次のとおりです。

**me@zhs.jp**

2. 郵便の場合は、随筆春秋事務局宛てにお送りください。宛先は、お手元の随筆春秋誌をご覧ください。

**事務局 TEL 03-3918-8500**

3. 随筆春秋第60号において募集いたしました当誌創刊30周年と佐藤愛子先生の百寿のお祝いメッセージは、第61号においても再度、募集します。

詳しくは裏面をご覧ください。

4. 年度賞の募集をいたします。すでに恒例ではありますが、随筆春秋第59号と第60号の年度賞をご推薦ください。

詳しくは裏面をご覧ください。

### 【3. と 4. の詳しいご説明】

◆ 随筆春秋第 60 号で募集いたしました随筆春秋創刊 30 周年と佐藤愛子先生の百寿のお祝いメッセージですが、お身内に不幸があったなどの理由で、辞退された方々がおられました。

また、新入会員で祝辞などは恐れ多いとして、辞退された方々もおられました。

そこで事務局では、第 61 号において、年度もあらたまることですし、第 60 号にお祝いメッセージを掲載なさらなかった方々を対象に、追加で募集をしたいと思います。

ご希望の方はどうかふるってご応募ください。

なお、すでに第 60 号にお祝いメッセージを掲載された方々のご応募はご遠慮ください。

◆ 随筆春秋年度賞募集についてです。すでに恒例ではありますが、第 59 号と第 60 号の年度賞をご推薦ください。それぞれの号でよかったと思われる作品名と作者名を 3 本ずつお願いいたします。

ご自身の作品原稿と一緒に、メモに書いて送っていただければ、と思います。メールでも構いません。12 月末日締め切りでございます。

——それではできるだけ、締め切りを目指してがんばりましょう！

随筆春秋事務局

正 倉 一 文